

APLO企画委員
木村 守隆

システムチックなヘルスケアのための
グローバルネットワークミーティングと
タイ国立タマサート大学歯学部見学に参加して

Dr.Beachとタマサート大学

2月8日～10日の3日間、タイ国立タマサート大学で開催された第1回Meeting of the Global Network for Systematic Health Care とタマサート大学歯学部見学ツアーに参加してまいりました。

日本からはDr.Beachを囲むスタディグループAPLO (Academy of Performance Logic for Oral Health)、OMUA (Optimum Management Unit Association) のメンバーを中心に35名が、それぞれ成田、大阪、福岡から3グループに分かれて渡航しました。

そもそも、タマサート大学歯学部は、世界に先駆けてDr.Beachの提唱する安定型診療台を全ての診療エリアに導入した画期的な大学です。

Dr.Beachは、タマサート大学歯学部長Dr.Prathip PhantumvanitやDr.Yupin、フィンランドのAssociate ProfessorであるDr.Heikki Talaな



講演を聴講している筆者（左端）。

ど多くの協力者のもと、歯学教育の改革に邁進されて来られました。

恩師の集大成ともいえるプロジェクトを一目見たいと、企画をBeach先生に持ちかけたところ、たまたまGlobal Meetingの開催時期と合致したため、こちらにも参加させていただくことになりました。

グローバルネットワーク ミーティング

日本から参加された歯科医師はほとんどが一般開業医です。7日の午前中はしっかりと診療され、午後から最寄の空港に向かうというハードスケジュール?でした。

バンコク到着は深夜、ベッドインしたのは午前2時を回っていました。

タマサート大学はバンコク市からは北西に車で約1時間のところにあります。

翌朝、眠い目を擦りながら到着したタマサート大学は、その敷地面積が茨城県の筑波大学にも匹敵するほど広大なものでした。

うら若き二人の美女の案内にしたがってミーティング会場に向かいました。

実はこの女性たち、立派な歯科医師であることを後で知りました。

当初はインフォーマルなミーティングを想像しておりましたが、実際



講演中のDr.Beach。

は11カ国から総勢80名を超える参加者に驚きました。

ミーティングはDr.PrathipとDr.Penchanの挨拶ではじまり、Dr.Beachの講演がありました。相変わらずの壮大な構想を理解するのは至難の業、唯一に救いは、いつも聞きなれた三明女史の同時通訳の声でした。

その後、Dr.Heikki Talaのわかりやすく、ユーモア溢れる講演を拝聴し、やっとミーティングに参加できたという実感が湧いてきました。

初日最後は、宿泊先のアジア・エアポート・ホテルに場所を移し、レセプション・パーティーが開かれました。

各国代表の挨拶に続いて、森田晴

夫モリタ社長の流暢な英語の祝辞、私と同年とは思えないスマートさに妬みを感じながらやけ食い。

これが後ほど命取りになるうとは…。

実は、タイ出身のセティシャイ先生（愛歯科湯河原診療所）とパーティを抜け出して「フカヒレ」を食べにいくことになっていたのです。

水戸律夫APLO会長（ア歯科水戸診療所）、越智先生（愛歯科診療所）、三原先生（大阪三原歯科）、塙先生（笠間市塙歯科）と連れ立って、タイ名物の交通渋滞に巻き込まれながら世界最大のチャイナタウンに向かいました。

あとで聞きましたが、ガイドブッ

クには「慣れない旅行者は行かないほうが…」と書かれてあったそうです。

確かに、路上に並べられたテーブルと椅子の50cmほど後方をビュンビュン走り去る車に恐怖感はありましたが、それを差し引いてもあまりあるほど美味しい「タイ風フカヒレスープ」でした。

M先生の強引なお誘いで、もう一軒屋台のはしごをすることになりましたが、満腹の私には「食べたいけ



各コーナーに分かれて実習中の参加者と大学スタッフ。



レセプション会場で歓談中の参加者。

ど食べられない」拷問のような時間を過ごすはめになりました。

結局この日も深夜のベッドインとなり、風邪気味で訪泰した私をこういう形で気遣ってくれる仲間感謝しながら初日の日程をこなしました。



森田晴夫モリタ社長に記念品を贈呈する、大会長：タマサート大学歯学部部長Dr.Prathip Phantumvanit。

pdベース診療

ミーティング2日目はGlobal Network設立会員である各国の代表者の発表がありました。

各地でのpd (proprioceptive derivation：固有感覚受容に基づく演繹) ベース診療の取り組みや活動状況が報告されました。

日本からは大阪大学歯学部臨床助教授の三原丞二先生が発表されましたが、大変興味深い内容でした。タイトルは「Systematics Care for the handicapped」。

健常者のみならず、心身にハンディキャップを持ち、不随意的な動作を

する方にとってさえも、リクライニング型のデンタルチェアがいかに不合理であるかいうことを歯科医師はあらためて認識する必要があることを感じました。

その他、Dr.Jean-Michael Laffont (フランス)、Dr.Michael Dougherty (米国)、Dr.Kim(韓国)、Dr.Jacques Verre (インド)らによる熱心な普及活動は、われわれに勇気と活力を与えてくれるものでした。

おわりに

最終日は、バンコク市内にある愛歯科サイアム診療所 (AI SIAM DENTAL CLINIC) を見学した後、帰国のために空港に向かいました。

来年にはタマサート大学歯学部新校舎に6ユニットのOMUが完成する予定です。近い将来、この大学が世界の歯学教育の情報発信地となることは疑いのない事実です。

Dr.Beachの教えを受けられたこ



愛歯科サイアム診療所。

とで、歯科医師として幸福な人生を歩むことができたわれわれは、ソフト面でも新たなサポートをしていく使命があると思います。

第2回のミーティング候補地として、各国から手があがりましたが、来年もこの地に集い、臨床データを持ち寄り、検討分析し、少しでも歯科医学の発展に寄与できればと考えます。

最後に、今回の企画にご参加いただいたAPLO、OMUAの先生方やご協力をいただいた事務局の皆様にご心より感謝申し上げます。



タマサート大学歯学部ホール。ウェルカムボードの前に集まってこられた参加者。